

農作物生育・技術情報5号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稻生育状況 (7月15日現在)

品種名	生育状況			生育の遅速
	項目	27年	平年	
ななつぼし	草丈	57.1cm	65.5cm	±0
	葉数	10.2葉	10.3葉	
	m ₂ 茎数	614本	611.3本	
	幼形期	7/5	7/4	

7月上旬の低温により、幼形期は遅れましたが、7月中旬の好天で生育は平年並みとなっています。

「ゆめぴりか」等の品種によっては、冷害危険期が終わり、走り穂が見られています。

出穂始に向けて、水田を浅い湛水状態にし、適度な土壌水分を確保しましょう。

技術対策

○冷害危険期終了の時期をつかむ

止葉が完全に出て「止葉の葉耳」と「前葉の葉耳」の間が「+5cm」となる頃まで（全葉の8割の葉耳間長が「+5cm」になるまで）です。

※冷害危険期の終了後は、根に酸素を供給するため直ちに落水し中干しを行います。中干しのポイントは、出穂直前まで水田内を歩行しても、ぬからない程度です。その後は湛水状態に戻しましょう。

○いもち病の発生について

北海道病害虫防除所BLASTAM(ブラスタム)より、日高管内では、いもち病準感染好適日が7月初旬に出ましたが、その後は出でいません。今後もいもち病が発生しそうな場合は、特に注意して観察しましょう。

2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト ハウス桃太郎 桃太郎 桃太郎8	<ul style="list-style-type: none"> 3月定植は第5～6段花房の収穫が始まっている。第8段花房で摘芯。 4月定植は7～8段目が開花し第2～3段花房の収穫が始まっている。 5月定植は6～7段目が開花し、第1～2段花房を収穫中である。一部4～5段目に落花が見られる。 6月定植は第4段目が開花している。 灰色かび病、葉先枯れ症状、アブラムシ類、アザミウマ類が一部のほ場で発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> 気象変動が激しい状況が続いているので、「灰色かび病・葉かび病」の発生に注意が必要。ベツ内側の葉を中心に摘葉を行い風通しを良くすると共に薬剤のローテーション利用による防除を行う。 強日照が予想される場合は、しゃ光資材や二重カーテンを利用し、日やけ果等を防止する。 アブラムシ類やアザミウマ類の寄生が確認されたら早めに防除を行う。
ハウス軟白ねぎ ホワイト等	<ul style="list-style-type: none"> 3～4月定植作型収穫中。 アザミウマ類、アザミウマ類、アザミウマ類の発生が多い。 日射量の増加により葉先枯れが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> アザミウマ類は土壌深2～3cmまで薬液が浸みるようにする。 アザミウマ類は高温少雨で多発するので、多発した場合は散布量を多くする。 ハウス周囲の除草を行い、収穫調製時の残渣を放置しない。 遮熱シートなどを活用し、ハウス内温度の上昇を抑える。

アスパラガス (ハウス立茎) スーパーウエルカム	<ul style="list-style-type: none"> ・アザミウマ類、斑点病、灰色かび病の発生が見られる。 ・偏平茎、裂開茎（タケノコ）が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウス周辺の除草を行う。 ・摘葉後の残渣を整理する。 ・土壌乾燥、高温に注意する。
---------------------------------------	--	--

* 日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。この抵抗性は抵抗性のやや強いタイプⅢです。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

4 畑 作

(1) 秋まき小麦

収穫開始時における子実水分の上限は35%とします。水分測定により収穫時期を判断し、品質の向上に努めましよう。

(2) ばれいしょ

開花後は茎葉から塊茎へのデンプン等の養分転流量が増加する時期です。また、茎葉は病害に侵されやすくなるので疫病や軟腐病等の発生に注意が必要です。ばれいしょの生育を良く観察し、多発生環境に注意しながら予防的防除に努めて下さい。

【防除例】

		疫病	軟腐病
多発生環境		中温（18～20℃）多湿	高温（25～30℃）多湿 寝苦しい夜が続くと要注意
防除例	未発生ほ場	グリーンペンコゼブ水和剤 フロンサイド水和剤 ダコニールエース	コサイド3000
	発生ほ場	ホライズンドライフロアブル フロンサイド水和剤	スターナ水和剤

注) フロンサイド水和剤は菌核病、夏疫病にも効果あり

軟腐病は下位葉から発生しやすく、茎葉の損傷で軟腐病菌が侵入しやすい

(3) 豆類

○大豆 ベと病の発生が上位葉に多い場合は、マンゼブ剤で防除します。

○小豆 菌核病、灰色かび病の防除は開花始後7～10日目に1回目防除しましよう。

【防除例】スミレックス水和剤

(4) てんさい

* てん菜栽培技術情報を参考に防除をしてください

○褐斑病 高温、多湿条件で発生しやすい。連作や前年発生した隣接畑では早期の発生や、多発生の恐れがあるため、定期的防除に心がけましよう。

○ヨウトウガ、カメノコハムシ食害を確認後、薬剤を茎葉処理しましよう。

5 農薬の安全使用

◎農薬使用基準を遵守しましよう。

農薬のラベルを良く確認し、適用作物、使用量・濃度、使用時期、総使用回数等の基準を必ず守りましよう。

◎農薬の飛散に気をつけましよう。

水稻の防除作業が本格的に行われています。

水田防除時には、隣接しているビニールハウスの入口、側面を閉め、農薬飛散防止に努めましよう。



